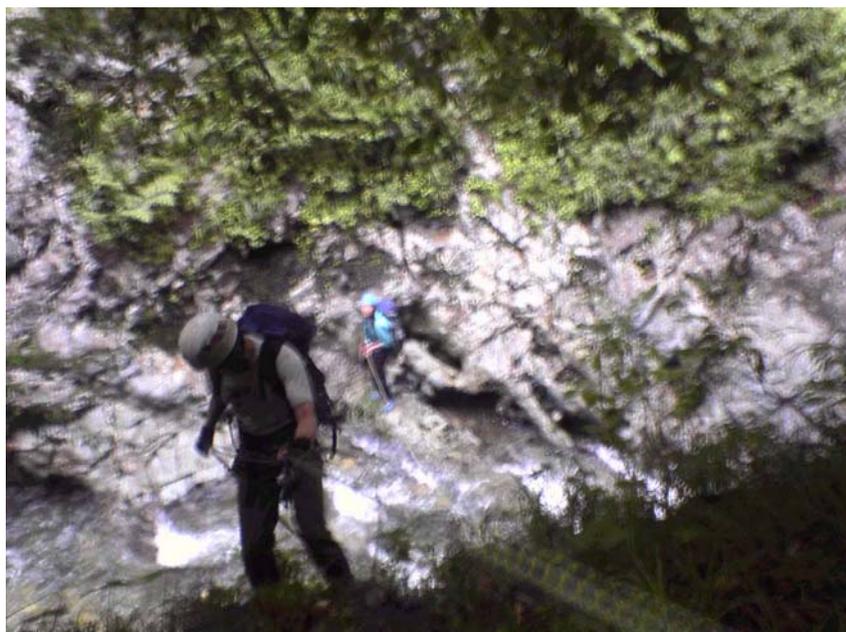


西朋 29

西朋登高会

2008 年 6 月





0414 和賀山塊/WC [夏山合宿] :
八瀧沢～和賀岳～大鷲倉沢
賭けの懸垂下降



0501 上越/VR :
大源太山コブ岩尾根
ルート全貌 緊張の展望



0504 北アルプス/ST [春山合宿]：小蓮華岳北西面～雪倉岳
最高の幕営地



0613 虎毛/WC [夏山合宿] :
保呂内川西ノ股沢～皆瀬川春川
本谷～虎毛沢下降～赤湯俣沢
圧巻の継続溯下降



--- The Best Photographs --- 西朋登高会



0629 南アルプス/VR [冬山合宿]：悪沢岳北尾根～赤石岳～小渋川
黎明の悪沢岳



0638 北アルプス：遠見尾根～五竜岳
登頂の笑顔

西朋 29

西朋登高会

— 目 次 —

卷頭言	・ ・ ・ ・ ・ 6
山行総覧	・ ・ ・ ・ ・ 7
西朋登高会 50 年：都立西高山岳部・WV 部 歴代現役 CL・SL・主要山行	・ ・ ・ 11
山行記録	
2004 年度	・ ・ ・ 13
2005 年度	・ ・ ・ 35
2006 年度	・ ・ ・ 71
追録	・ ・ ・ ・ 120
西朋登高会会則	・ ・ ・ 121



巻頭言

西朋 29 号では、2004 年に同時に発行した西朋 27、28 号以降の記録がまとめられています。山行については 20 代後半から 30 代前半の中堅会員を中心に、中高年組の積極的参加もあり、なかなかユニークな内容ではないかと思えます。活動メンバーの絶対数の関係から大規模な合宿や集中登山的なものはできませんが、少数でも精鋭が頑張ってくれています。また、60 代以上の諸先輩もバリエーション組とは別に、現役として多くの山行を行っておられ、頭が下がる思いです。

前号を発行した後、会としてもいくつか大きな動きがありました。まず、創設メンバーで、ずっと会をリードしていただいた、田中将利・元会長の突然のご逝去（2005 年 8 月）、同じ 4 期の平沢勇さんのご逝去（2006 年 3 月）、西高・記念祭への OB 会としての出展（2006 年 9 月）。記念祭で改めて西朋に入会していただいた先輩も多数いらっしゃいました。

田中さんの追悼特別号を別途発行しましたが、編集をしている過程で、先輩が保管されていた資料や、西高の部室に残っていたものを含めて、西高山岳部、ワンダー・フォーゲル部、西朋登高会の 50 年前からの資料を調べなおし、前号編集の時点では不明だった事もいろいろと判りました。一部は記念祭の展示で発表いたしました。この号でも年表として掲載しております。

私だけの事かもしれませんが、記憶というものは結構あいまいなものだと感じています。いわゆる「暗記力」の事ではなく、思い違いや、思い込みが多く混入していて、自分に都合良く、あるいは誇張して「記憶」してしまっている事もたくさんありそうです。特に、印象が強烈的な山行や出来事には、当事者同士でも違ったイメージを描いていたりするかもしれません。学生時代に書かれたものには、ずいぶん気負った感じの文章も見られますが、その人の、その時代なりの考えが映し出されていて興味深いものがあります。

記録し、報告として残す事の意義を改めて痛感いたしました。もちろん、記録や文章の対象となる山行の充実がもっとも大事であることは言うまでもありません。

会長 遠藤 彰

2004 年度（平成 16 年度）山行総覧

No.	日程	山行名	参加者
0401	4/11	中越/ST：大原スキー場～守門岳	山田, 加藤, 高橋, 尾崎
0402	4/24	伊豆/FCT：城山	尾崎, 他 5
0403	5/2-5	海谷/VR&ST【春山合宿】：天狗原山～屋間山～吉尾平	青谷, 尾崎, 灘吉
0404	5/3-5	海谷/VR&ST【春山合宿】：吉尾平～屋間山(中退)雪訓	山野, 加藤, 高橋, 福村
0405	5/15	奥多摩/RCT：つづら岩	尾崎, 他 4
0406	5/22	北アルプス/ST：清水谷左俣・白馬大雪渓	尾崎
0407	6/19	奥武蔵/RCT：日和田山	尾崎, 灘吉, 島田, 鈴木, 福村
0408	6/20	奥多摩/RCT：岳嶺岩 レスキュートレーニング	尾崎, 他
0409	7/18	御坂/RCT：三つ峠 中央カンテ他	尾崎, 他 2
0410	7/24-25	中央アルプス/WC：正沢川細尾沢～木曾駒ヶ岳	尾崎, 他 1
0411	8/1-9	南アルプス全山縦走	福村, 他
0412	8/2-6	北アルプス：折立～黒部五郎～鷲羽～槍	島田, 他 6
0413	8/8-10	九州：九重山群	灘吉
0414	8/12-15	和賀山塊/WC【夏山合宿】： 八瀧沢～和賀岳～大鷲倉沢	遠藤, 青谷, 松本, 加藤, 上野, 額賀, 尾崎, 島田
0415	8/28-29	奥多摩/西朋祭：氷川キャンプ場	山野, 渡辺, 中村, 松本, 遠藤, 加藤, 上野, 尾崎, 島田
0416	9/18-20	上越/WC：東黒沢～ナルミズ沢～蓬峠	島田, 他 3
0417	9/20	奥秩父/FC：小川山 広瀬オリジナル他	尾崎, 他 5
0418	9/25	八ヶ岳/VR：阿弥陀南稜～御小屋尾根	尾崎, 島田
0419	10/11	上越/WC：大源太山鷲ノ首沢	青谷, 尾崎
0420	10/23	上越/WC&RC：谷川岳 マチガ沢東南稜	尾崎, 他 1
0421	10/30-31	北アルプス：白馬三山	尾崎, 他 4
0422	11/3	上州：表妙義	岡田, 他
0423	11/21	奥武蔵/RCT：日和田山	松本, 尾崎
0424	11/28	上州：裏妙義	尾崎, 他 1
0425	12/11	北アルプス前衛：小遠見山～天狗山	尾崎
0426	12/18-19	北アルプス：八方尾根～唐松岳	尾崎, 他 2
0427	12/25-29	南アルプス/VR【冬山合宿】：畑薙ダム～赤石岳	加藤, 尾崎, 島田
0428	12/26-29	上越：宝台樹スキー場	山野, 上遠野, 青谷
0429	1/8-9	上越：宝台樹スキー場	山野, 福村, 西高生
0430	1/30	奥武蔵/RCT：日和田山	尾崎, 他 3
0431	2/11-13	裏岩手連峰/ST：網張温泉～大深山～松川温泉	青谷, 尾崎
0432	2/26	上越：土合駅前・雪訓	尾崎, 他 3
0433	3/19-21	海谷/VR&ST：烏帽子岳東稜	尾崎, 他 2

2005 年度（平成 17 年度）山行総覧

No.	日程	山行名	参加者
0501	4/9-10	上越/VR：大源太山コブ岩尾根～七ッ小屋山	尾崎， 灘吉
0502	4/17	中央沿線【超 OB 山行】：岩殿山	田中 ^美 ， 林， 田中 ^康 ， 他 3
0503	4/29-30	北アルプス/VR：杓子岳双子尾根	尾崎， 他 4
0504	5/3-5	北アルプス/ST【春山合宿】：柵池～小蓮華岳北 西面～雪倉岳～木地屋	加藤， 上野 ^午 ， 尾崎， 上野利， 灘吉， 他 1
0505	5/21	北アルプス/ST：針ノ木雪溪・マヤクボ雪溪	尾崎， 他 2
0506	6/12	奥武蔵/RCT：日和田山	遠藤， 松本， 尾崎， 島田， 中山， 他 1
0507	6/18	奥越：荒島岳	尾崎
0508	7/17-18	奥秩父/WC：入川大荒川谷～ナメラ沢下降	松本， 加藤， 高橋， 尾崎
0509	7/31	中央アルプス前衛：坊主岳	尾崎
0510	8/16	頸城：大神堂～海谷駒ヶ岳	尾崎
0511	8/20	八ヶ岳/VR：広河原沢中央稜～阿弥陀岳	尾崎
0512	8/27-28	奥多摩【西朋祭】：氷川キャンプ場	田中 ^康 ， 山野， 渡邊 ^善 ， 中村， 遠藤， 松本， 上野 ^午 ， 額賀， 尾崎， 灘吉
0513	8/28	奥多摩/WC：入川谷本谷	中村， 渡辺， 松本， 尾崎， 灘吉
0514	8/28	屋久島：タナヨケ歩道入口～モッチョム岳	高橋
0515	9/2-3	神室連峰：火打岳～杓蔵山	尾崎
0516	9/17-19	北アルプス/VR：前穂北尾根	尾崎， 他 3
0517	10/9-10	頸城/WC：真川焼沢～火打山	尾崎， 他 1
0518	10/22-23	南アルプス：鳳凰三山～広川原	尾崎， 他 1
0519	10/23	上越/RC：一ノ倉（ヒョングリの滝まで）	松本， 他 1
0520	10/29-30	南アルプス/VR【冬山偵察】：仙丈岳東尾根	尾崎
0521	11/19-20	南アルプス/VR【冬山偵察】：農鳥岳北東稜	尾崎， 島田
0522	12/17	上越：天神尾根～谷川岳， 雪訓	尾崎， 他 1
0523	12/23-25	上越：宝台樹スキー場	上遠野， 山野， 東山， 時苗（西高生）
0524	12/27-31	南アルプス/VR【冬山合宿】：農鳥岳北東稜～北岳	松本， 加藤， 尾崎
0525	2/4-6	上州武尊山：旭小屋～前武尊～沖武尊～宝台樹	松本， 尾崎
0526	2/11	日光：男体山	灘吉
0527	2/25	那須/ST：北湯温泉～三本槍岳	尾崎， 灘吉， 島田
0528	3/4	北アルプス/ST：柵池～天狗原～山ノ神尾根	尾崎
0529	3/18-19	上越/VR：クロガネの頭中尾根（敗退）	松本， 尾崎， 他 1

2006 年度（平成 18 年度）山行総覧

No.	日程	山行名	参加者
0601	4/1-2	八ヶ岳：天狗岳西尾根	島田, 福村, 中山
0602	4/8-9	上越/ST：土樽～蓬峠(宝川への計画敗退)	尾崎, 灘吉
0603	4/24	湘南平【超 OB 山行】	松田, 黒澤, 橋本
0604	5/3-5	上越/VR【春山合宿】：武能岳西尾根～白毛門	山野, 島田, 福村
0605	5/3-5	上越/VR・ST【春山合宿】：武能岳西尾根～宝川	尾崎, 灘吉
0606	5/4-6	北アルプス/ST：槍沢～槍ヶ岳	加藤
0607	5/21	北アルプス/ST：三本滝～乗鞍岳	尾崎, 他 2
0608	5/27	北アルプス/ST：白馬大雪渓	尾崎
0609	5/31	湘南平【超 OB 山行】	田中実, 桑田, 橋本, 他 7
0610	6/8-9	利尻島：鴛泊～利尻岳	上野 ^利 , 他 1
0611	7/2	南大菩薩/WC：滝子沢左俣	尾崎, 島田
0612	7/22	奥多摩/WC：一之瀬川 竜喰谷	青谷, 尾崎, 島田
0613	7/30	八ヶ岳/WC：地獄谷本谷～ツルネ東稜下降	尾崎
0614	8/9	白神山地：陸奥黒崎～白神岳	上野 ^利 , 他 2
0615	8/12-15	虎毛山地/WC【夏山合宿】：保呂内川西ノ股沢～皆瀬川春川本谷～虎毛沢下降～赤湯俣沢	松本, 加藤, 尾崎, 島田
0616	8/13	奥多摩/WC：水根沢	山野, 上野 ^利 , 他
0617	8/26-27	奥多摩【西朋祭】：氷川キャンプ場	山口, 関谷, 林, 田中, 山野, 渡邊, 中村, 遠藤, 青谷, 上野 ^平 , 尾崎, 灘吉
0618	8/27	奥多摩/WC：日原川鷹ノ巣谷	渡邊, 中村, 青谷
0619	9/2	北アルプス【春山偵察】：白馬鎚ヶ岳南稜目視	尾崎
0620	9/16-18	虎毛山地/WC：三滝沢～赤湯又沢～泥湯温泉	中村, 青谷, 上野 ^平
0621	10/1	奥武蔵/RCT：日和田山	尾崎, 島田
0622	10/7-9	北アルプス：燕岳～東鎌尾根～槍ヶ岳	尾崎, 灘吉
0623	10/14	越後：八海山	高橋, 他
0624	10/22	奥武蔵/RCT：日和田山	尾崎
0625	10/27-28	頸城：海谷駒ヶ岳～雨飾山	尾崎
0626	11/3	奥武蔵/RCT：日和田山	作間, 尾崎, 他 1
0627	11/3-4	上越：四万温泉～赤沢峠～法師温泉	山野, 伊藤, 岡田, 小川, 平野, 山崎
0628	11/23	奥武蔵/RCT：日和田山	作間, 尾崎, 他 2
0629	11/25-26	南アルプス/VR【冬山偵察】：小渋川～荒川岳西稜取付	松本, 尾崎
0630	12/8	箱根【超 OB 山行】：旧街道	田中実, 都築, 橋本, 他 8
0631	12/21	箱根【超 OB 山行】：矢倉岳	松田, 黒澤, 橋本
0632	12/24	南大菩薩：お坊山南東尾根～米沢山北尾根	尾崎

No.	日程	山行名	参加者
0633	1/3-6	南アルプス/VR【冬山合宿】：悪沢岳北尾根～赤石岳～小渋川	松本, 尾崎
0634	1/6-7	八ヶ岳：赤岳文三郎道	中村
0635	2/11	北八ヶ岳/ST：蓼科山北面～親湯	尾崎
0636	2/17-18	奥秩父：金峰山	中村, 渡辺
0637	2/17-18	上越：土合・都岳連冬山レスキュー講習会	松本, 尾崎
0638	2/24	北八ヶ岳/ST：渋の湯～天狗岳～白駒池～麦草峠～瓢箪坂	尾崎
0639	2/24-25	御坂：十二ヶ岳	松本, 他
0640	3/10-11	頸城/ST：大渚山～西稜線	松本, 尾崎
0641	3/21	上州/ST：武尊山～川場谷	青谷, 尾崎
0642	3/31-4/1	北アルプス：遠見尾根～五竜岳	松本, 尾崎

山行形式

VR: バリエーションルート

WC: 沢登り

ST: 山スキー

IC: アイスクライミング

FC(T): フリークライミング (トレーニング)

RC(T): ロッククライミング (トレーニング)

山行のとりまとめについて

ホームページまたは電話で計画の届出があった山行と超 OB 山行を総覧に記載した。個人山行は報告分を各年度の記録の後に別途記載した。

西朋登高会50年:都立西高山岳部・WV部 歴代現役CL・SL・主要山行

西暦 年度	和暦 年度	2年生 (期)	2年生 CL	SL	新歓	夏山	冬orスキー	春山	その他
1946	21								4月山岳部創設・9月体育会承認
1747	22	十中 1							4月都立第十新制高校設立 十中6期生卒業
1948	23	十中 2	中川						3.15十中7期生卒業(中学最終)
1949	24	西高 3	笹野			南ア 甲斐駒、仙丈ヶ岳、鳳凰三山			十高山岳部部報No.1No.2 3.15新制高校第1回卒業式 部報No.3～5 No.4から彷徨に改称 9月OB会発足 1月東京都立西高等学校と改
1950	25	西高 4	田中将	村田 山口 中野					3.15十中7期生卒業(中学最終)
1951	26	西高 5	中野	村田 加藤	川苔山集 中登山	奥秩父 主峰縦走	スキーはなし個 人で金峰山な	多摩南稜縦走	彷徨6～8 OB会解体・NAC (Nishi Alpain Club)発足
1952	27	西高 6	加藤	林武	長澤背稜 線縦走+	北ア A:烏帽子岳～ 榎ヶ岳 B:燕岳～ 川苔山	白馬 細野	南ア 仙丈岳	5月彷徨9 10.25創立15周年記念式 学友歌
1953	28	西高 7	福田	関谷	奥多摩 川苔山	北ア A:烏帽子岳～ 榎ヶ岳 B:徳本峠～ 酒沢	上州武尊山	奥秩父 鶏冠尾根 ～金峰山	4月「西朋登高会」発足 彷徨10
1954	29	西高 8	京田	佐伯	川苔山 奥多摩	北ア 笠ヶ岳～ 榎ヶ岳～酒沢	草津～万座温 泉	中ア木曾駒～宝剣 岳三ノ沢岳	11月彷徨12
1955	30	西高 9	松田	田辺	御岳～日 の出山	北ア 針ノ木～立 山～剣～酒沢	白馬 細野	中ア 空木岳	10月彷徨15
1956	31	西高 10	黒澤	山岸	川苔山	北ア 裏銀座縦走	七味温泉	八ヶ岳	
1957	32	西高 11	田中	今井	川苔山	北ア 弥陀ヶ原～ 剣沢定着～黒部	白馬 黒菱	南ア 北岳	
1958	33	西高 12	川田	梶内	川苔山	北ア 酒沢定着	八ヶ岳	中ア 空木岳	
1959	34	西高 13	野原	加藤	川苔山	北ア 蝶ヶ岳～榎ヶ 岳～奥穂	山田牧場		
1960	35	西高 14	板垣	山本	川苔山	北ア 横尾定着	志賀高原	八ヶ岳 天狗岳	10月彷徨16 6月「ワンダーフォーゲル部 に改称
1961	36	西高 15	京谷	菱沼	川苔山	北ア 裏銀座			
1962	37	西高 16	岩永		川苔山	北ア 横尾定着			
1963	38	西高 17	秋山	三浦	川苔山	北ア 唐松～朝日 縦走		スキー合宿に代替	
1964	39	西高 18	野寄	尾崎	川苔山	北ア 笠ヶ岳～榎ヶ 岳縦走	八方尾根	南ア 鳳凰三山	10月彷徨17
1965	40	西高 19	女子 滝口 伊藤	高木 山崎	川苔山	北ア 白馬	八方尾根	大湯スキー場	北ハツ 天狗岳 OB委託で春山
1966	41	西高 20	女子 八島	中尾	川苔山	北ア 白馬 立山連峰、 剣岳	苗場	八ッ 硫黄岳、赤岳	10月彷徨18
1967	42	西高 21	女子 古西	水口	川苔山	北ア 常念岳、奥 穂高岳 黒部五郎～双六岳、 榎ヶ岳	榎池高原	スキー:八方尾根 奥秩父 金峰山～ 甲武信岳	
1968	43	西高 22	女子 在間	田口	川苔山	北ア 白馬岳～雪 倉岳～朝日岳	榎池高原	スキー 美ヶ原高 原 北ハツ 夏沢峠定 着、硫黄岳、天狗 岳往復	5月彷徨19
1969	44	西高 23	女子 荒木	吉田	川苔山	北ア 立山連峰 復 風吹大地～白馬往 復	榎池高原	南ア 早川尾根	10月彷徨20
1970	45	西高 24	倉重	石川	川苔山	北ア 後立山連峰	天神平	南ア 仙丈ヶ岳	
1971	46	西高 25	女子 森下	鈴木	奥多摩 鷹ノ巣山	南ア 塩見～聖岳 縦走	天神平	八ヶ岳 赤岳、硫黄 岳	
1972	47	西高 26	女子 遠藤	戸倉	奥多摩 鷹ノ巣山	北ア 薬師岳～ 榎ヶ岳～南岳	岩岳スキー場	八ヶ 大河原峠～ 硫黄岳、赤岳	
1973	48	西高 27	女子 伊東	森田	奥多摩 鷹ノ巣山	北ア 薬師岳～剣 岳 朝日連峰	天神平	北ア 五竜岳	

この辺まで幹部(CL、SL)の世代交代は夏だったが、72年頃より春に世代交代するようになった。

西暦 年度	和暦 年度	2年生 (期)	CL	SL	新歓	夏山	冬orスキー	春山	その他
1974	49	西高 28	青谷	小玉	奥多摩 棒ノ折山	北ア 燕～槍ヶ岳 ～黒部源流	天神平	南ア 仙丈ヶ岳～ 早川尾根	10月彷徨21
1975	50	西高 29	中野	高島	奥多摩 鷹ノ巣山	北ア 朝日岳～ 爺ヶ岳	天神平	北八ッ 大河原峠 ～赤岳鉱泉	
		女子	糸原	菊谷	奥多摩 鷹ノ巣山	北ア 燕～常念・奥 穂	天神平	蓼科山	
1976	51	西高 30	池田	木村	奥多摩 御前岳	北ア 薬師岳～雲 ノ平	天神平	北八ッ 天狗岳～ 硫黄岳	
		女子	菊地		奥多摩 御前岳	飯豊連邦	天神平		
1977	52	西高 31	穴戸	藤岡	奥多摩 川苔山	北ア 表銀座～赤 牛	天神平	南ア 早川尾根～ 仙丈ヶ岳	
1978	53	西高 32	垣見	鈴木		北ア 祖母谷～白 馬～五竜岳	天神平	中ア 木曾駒ヶ岳	
1979	54	西高 33	羽鳥	渡部	奥多摩 御前岳	北ア 薬師岳～ 槍ヶ岳縦走	天神平	南ア 千枚岳	
		女子			奥多摩 御前岳	北ア 燕～常念・奥 穂			
1980	55	西高 34	荻田	吉田	奥多摩 鷹ノ巣山	北ア 朝日岳～五 竜岳	戸隠スキー場	北ア 蝶ヶ岳	
1981	56	西高 35	西入	加藤	奥多摩 三頭山	北ア 燕～槍～薬 師岳	武尊スキー場	南ア 光、上河内 岳	
		女子			奥多摩 三頭山	北ア白馬～朝日岳	武尊スキー場		
1982	57	西高 36	中村	武内	奥多摩 大岳山	北ア 白馬～爺ヶ 岳	戸狩スキー場	北八ヶ 茶臼岳～ 硫黄岳	
		女子	竹林	江頭					
1983	58	西高 37	相澤	辨野	奥多摩 川苔山	南ア 甲斐駒～農 取岳	黒姫スキー場	奥秩父 金峰山～ 国師ヶ岳	9月彷徨22
		女子	沖田		奥多摩 川苔山	北ア 燕岳～蝶ヶ 岳	黒姫スキー場		
1984	59	西高 38	本間	斉藤	奥多摩 御前岳	北ア 燕岳～槍ヶ 岳～烏帽子岳	高峰スキー場	南ア 上河内岳～ 光岳	
		女子	笠原	松原	奥多摩 御前岳	南ア 白峰三山	高峰スキー場		
1985	60	西高 39	内倉	中川	奥多摩 鷹ノ巣山	北ア 後立山連峰	乗鞍高原温泉	南ア 仙丈ヶ岳、ア サヨ峰	9月彷徨23
1986	61	西高 40	高橋	坂本	奥多摩 三頭山	北ア 薬師岳～劔 岳	日光 鷲頂山	南ア 上河内岳～ 光岳	
1987	62	西高 41	栗原	緒方	大岳山～ 鋸山	北ア 燕岳～笠が 岳		北八ッ 天狗岳～ 硫黄岳	
1988	63	西高 42	松原	内田	奥多摩 川苔山	北ア 薬師岳～劔 岳	志賀高原・熊の 湯、横手山	北八ッ 北横岳～ 硫黄岳	
1989	1	西高 43	古川	博多	奥多摩 三頭山	北ア 常念～槍ヶ 岳	妙高 池の平ス キー場	南ア 鳳凰三山～ 早川尾根	
1990	2	西高 44	青山	松下	奥多摩 川苔山	北ア 後立山連峰	妙高 池の平ス キー場	北八ッ 天狗岳～ 硫黄岳	
1991	3	西高 45	江川	野村	奥多摩 三頭山	北ア 薬師岳～雲 ノ平～笠ヶ岳	アサマ2000	南ア 光岳	
1992	4	西高 46	佐々木	菊池	奥多摩 御前山	北ア 薬師岳～劔 岳	上越 黒姫高 原スキー場	南ア 鳳凰三山～ 早川尾根	
1993	5	西高 47	西原	後藤	奥多摩 川苔山	北ア後立山連峰	妙高 池の平ス キー場	南ア 早川尾根～ 仙丈ヶ岳	記念祭 展示部門第一位
		女子			奥多摩 川苔山	北ア後立山連峰	池の平	奥秩父 武甲山	
1994	6	西高 48	灘吉	鈴木	奥多摩 三頭山	北ア 薬師岳～ 槍ヶ岳	アサマ2000	北八ッ 硫黄岳～ 蓼科山	
1995	7	西高 49	細田		奥多摩 川苔山	北ア 薬師岳 劔 岳	岩原スキー場	南ア 光岳、上河 内岳	
1996	8	西高 50	天野	牧野	奥多摩 三頭山	北ア後立山連峰	万座温泉	北八ヶ岳 硫黄岳 ～天狗～横岳	3月彷徨24
1997	9	西高 51	小倉		奥多摩 御岳山	北ア 薬師岳～槍 ヶ岳	アサマ2000	八ヶ岳 硫黄岳	
1998	10	西高 52	佐藤	横田	奥多摩 川苔山	北ア 槍ヶ岳～常 念～蝶ヶ岳	万座温泉	北八ヶ岳 硫黄岳 ～天狗～茶臼 八ヶ岳 袖添尾根 ～横岳	
1999	11	西高 53	鈴木	島田	奥多摩 鷹ノ巣山	北ア 後立山連峰	水上宝台樹		部長:阿部
2000	12	西高 54	石塚	北爪	奥多摩 御前山	南ア 荒石三山	水上宝台樹	南ア 鳳凰三山 北八:硫黄岳、天 狗岳	
2001	13	西高 55	森園		奥多摩 棒ノ折山	南ア 白根三山	水上宝台樹	高尾山～陣馬山縦 走	
2002	14	西高 56	福村	伊豆川	奥多摩 棒ノ折山	北ア 蝶ヶ岳、常念 岳、燕岳	水上宝台樹		
2003	15	西高 57	服部	岡島	丹沢 割山	北ア 白馬岳～朝 日岳	水上宝台樹	奥多摩 日の出山	
2004	16	西高 58	小澤		丹沢 大 山	北ア 常念岳～蝶ヶ 岳		高水三山	
2005	17	西高 59	菅井	蒔苗	不明	北ア 白馬岳	日和田山 物見 山	石割山	
2006	18	西高 60	角館	保延	仏果山 高取山	北ア 燕岳～蝶ヶ岳		奥武蔵破風山	

2004 年度

2004 年度役員

会長	遠藤 彰
チーフリーダー	上野 午良
サブリーダー	尾崎 宏和
学生リーダー	島田 悠彦
会計	山田 裕久
記録・会報	尾崎 宏和 灘吉 聡 島田 悠彦
装備	尾崎 宏和
ホームページ係	灘吉 聡
西高係	山野 裕 福村任生
都岳連関係	上野 午良
超 OB 係	林 武志

2004 年度 山行記録

0401 中越/ST : 大原スキー場～守門岳

【期日】 2004. 4. 11(土) 【参加者】 山田, 加藤, 高橋, 尾崎

【コースタイム】

スキー場発 6:35-7:13 スキー場上 7:30-8:28 R-10:12 稜線 10:29-11:50 守門岳 12:47-14:40
R-15:06 大原スキー場

加藤先輩の車で前夜に大原国際スキー場に到着し、駐車場にテントを張って寝る。温かかった東京とはうってちがいで、さすがに風は寒い。

翌朝、穏やかに晴れた空の下、スキー場を歩き始める。1P でスキー場トップへ。そこから右上に頂上を望みながら進む。急登して左から尾根を合わせると、主稜線直下にはさらに急な斜面が見えてくる。そこはすでにヤブが出て、スキーを外し、枝に引っ掛けながら行く。ここは下りは難儀しそう。右手には大スラブ滝が見えており、下降点の判断もしっかりしたいところ…

稜線に出れば信じられないような山スキー向きの広い尾根。本当に稜線散歩で軽いアップダウンをこなす。1 時間ほどで思ったより早く頂上直下へ達する。最後は左の本高地沢斜面から回り込み、守門岳主峰へ。鋭いピークの袴腰の向こうへ滑り降りるスキーヤー。青雲岳方面から歩いてくる登山者。東には春霞のかかる浅草岳が大きな裾野を広げている。

さて、いよいよ下り。本高地沢沿いに滑ったらさぞ気持ちよさそう、なんて誘惑にちょっとは駆られつつ、また左にトラバースしながら大原スキー場への下降点へ戻る。ヤブ斜面はその左の急な沢筋からかわし、ターンを決めて急降下。下方に滝場がありそうで、念ため左の樹林へ逃げる。しかしかえって狭いルンゼ状に急に滝がばっくり現れたり、それはそれで山スキーの醍醐味を感じる滑降だった。見上げれば樹林へのエスケープは必要無かったようで、雪はずっと続いていた。ここからは、だだっ広い緩斜面にスキーを滑らせ、林道から大原スキー場中部に戻る。日曜なのに閑散としたスキー場を下って駐車場に帰還した。

春山合宿 2004 縦走組

0404 海谷/ST : 天狗原山～昼闇山

【期日】2004. 5. 3～5 【参加者】青谷, 尾崎, 灘吉

5/2 雨飾荘 7:20-9:30 ブナタテ尾根登山口 9:44-10:46 1550m 地点 11:14-12:09 1650m 12:26-13:14R-14:50 1950m-16:25 天狗原山

小谷温泉から妙高方面への林道をスキーをつけて約 2 時間、歩き飽きたころブナタテ尾根に取り付く。雪の消えた斜面も 1 時間登ればスキー登高が可能となるが、雪質からか？シールが効かず、なかなか苦しい登りを強いられる。尾根は広く地形も複雑。二重山稜状で窪を行けば雪が切れて沢登り状態。横には行者ニンニクが美味そうに生えていた。ズボンを濡らして台地に出れば、強烈な日差しに目を眩ませながらも再びシール登高で緩急を繰り返す。



雨飾山

頂上への急な登高を左から巻き気味にこなすと、待ちに待った大展望。緩やかな稜線は本当に限りなく、オオシラビソの疎林がなんともメルヘンチックである。ド快晴も午後の斜光でだんだん群青みを帯びてくる。そんな稜線をたどって天狗原山頂上へ。今日はその一番高くて一番平らな所を選んで幕営。西には雨飾山と北アルプスがかっこよく、東には焼山、火打、妙高、そして南東方向に乙妻、高妻山が見渡せる。軽量化のため 3 シーズンシュラフでは夜の冷え込みは厳しかった。

5/3 発 5:45-6:20 金山 6:35-7:43 裏金山手前 8:00-8:44 富士見峠-10:15R-11:45 昼闇山 12:44-15:55 R 16:10-17:28 吉尾平 BC

今朝も快晴のもと歩き出す。金山までのちょっとした下りも、シールをつけての滑降は一苦勞。のびやかな尾根を金山頂上へ。ここで行く手に海谷の山々が見渡せる。正面の昼闇山まで 4-5 時間と見た。

思い切ってシールをはずせば快適な山スキー縦走のはじまり。頂上からの下りも臆せず Go。雪質はほどよく、アップダウンもほとんど難なく進んで行く。



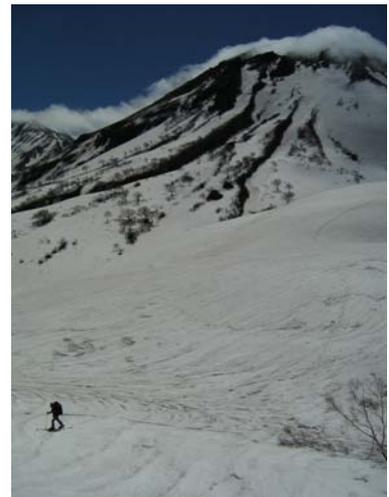
天狗原山頂上の幕営風景

でも、分割ボードの灘吉君は苦勞していた。一方のフリートレックは超快適でごめんなさい。

2Pで焼山西面の分岐に着く。上方には荒々しい焼山の斜面が流れるガスに見え隠れする。ここから昼闇山方面の分岐はルーファイが微妙で、あやしいと思った谷にも慎重になる。灘吉、尾崎は、もう1本先かもとトラバース気味に進めばそこはもう、かの有名な焼山北面台地！そうとなったらターンを切って、左の谷に滑り戻る。さすがに青谷さんは悟っていて、悠々と谷を滑り降りてきた。春の明るい日差しを浴びながら、夢のような滑降。適当な所から左へトラバースして尾根に乗り、稜伝いに進んで行く。緩いアップダウンが多く、こうなるともはやスキーは脱いだほうが早い。

金山頂上で谷の向こうに見えた昼闇山が、今は左に高い。雪原を進んで行くころには空は雲に覆われ始め、天気予報どおり明日は崩れそうだ。北東尾根の頭で去年のルートに合流すれば頂上は一投足。だが最後は急登、「見えてからが長い」！

2年連続の昼闇山。こんなマイナーピークに毎年来るのも物好きだななどと話す。雪は去年よりもだいぶ少ない。北面のカールには、吉尾平BCの山野さんたちのパーティーがいるはずだ。よく観察すると、スキーを履いた4人が昼闇谷左岸の尾根を登ってくる姿がごま粒のように見えた。思いきって笛を吹いたが聞こえない模様だった。



焼山北面台地

藪漕ぎを交えながら稜線を西へたどり、急斜面を降りた二重山稜地点でBC組の山野、加藤、高橋、福村4氏と合流。山中での仲間と会うのは気持ちよい。ここから昼闇カールに滑り込む。斜面は急で、福村君が滑落してしまう結構やばい状況で、ルート判断に反省させられた。無事であったことが何よりである。

今年の幕営地は昨年の対岸、アケビ平の植林帯の中だった。縦走組はBC到着と共にどっと疲れが出たのか、しばらくはぼうっとしていた。ココアがうまかった。妙にもわっとして湿気が高く、暑いのでテントの口を開けっ放しで寝てしまった。

5/4 3:30 起床 雪上訓練 BC12:47-14:40 焼山温泉

夜半からの降雨が顔を打ち、気付いて閉めた記憶がある。しかし朝を迎えれば雨は降っていなかった。

今日は、昨日の渡渉地点手前で見つけた好斜面で雪訓ということとし、必要装備を持って出発した。雪上歩行、ピッケルストップ、スノーバーやデッドマン、ピッケルなどを使った雪上での支点のとり方と確保練習、ロープ結束法、1/3プルアップシステム。さらに雪崩ビーコンを使った電波誘導法による搜索、ビーコンの直角法とゾンデによるピ



雪訓後の記念撮影

ンポイントのコツなど。雨脚が本格化した昼過ぎまで、それなりの内容となった。

テントを撤収し、焼山温泉まで。本降りの雨の中ルーファイミスをしてしまうが、14時過ぎには無事下山した。メンバーもそろい、楽しい山だった。

0406 北アルプス/ST：白馬大雪溪・清水谷上部

【期日】2004. 5. 22(土) 【参加者】尾崎

最近恒例の5月中下旬の北アルプス単独山スキー。シーズン最後の雪ということで、今年も直前に決めて強引に行ってきた。今年は、岳人2004年3月号「山スキー2004 ツアー編」を参考に白馬雪溪～清水谷左俣滑降～右俣登高～杓子岳西面～縦走路～白馬雪溪を1日でやろうと考えた。

6時半に猿倉を歩き始め、10時には稜線。さすがフリートレックは登りに強い!? 今回の核心部はここからだ。なのに、清水谷は、ガスに巻かれて視界ゼロ。しばらく躊躇して頂上を往復するなどして待ってみる。そのうちガスが薄くなってきて、これはいけるかもという感じになってくるが、まだちょっと怖い。

取りあえず旭岳との鞍部まで行ってみると、運良くガスが晴れ、下部も見通しがきき始める。雪質も快適で、思い切って2400M付近まで滑り込む。でもいつガスに巻かれるか恐かった。西面から見ると、斜めに構えた杓子と白馬鑓がなかなかのスケールでカッコいい。

2400M付近より下は雪溪が割れ、水流が出ていて状態が悪そう。往路引き返しもつまらないので、雪溪を繋いで白馬-杓子の最低鞍部へ登る沢筋の1つ北側の窪を詰めて村営白馬宿舎南側の稜線に出た。

そこから、大雪溪へ滑り込もうとしたものの、急傾斜に亀裂が入りまくりで、結局頂上宿舎まで登り返す。白馬雪溪は、葱平ですでに1箇所雪が繋がっておらず、1度板を脱ぐ。そこからの急斜面は、雪質も悪くなり、転びながら苦しい滑り(?)を強いられた。結局、雪溪は上部はいいものの下部はガジガジ、2月新調のフリートレックではきつかった。長いスキーを使っていた人ですら、雪質に苦労していた模様。以前は6月上旬でも滑れたのに、温暖化なのかなあと悲しかった。

天気は終日曇、稜線はガス、午後は雷雨とコンディションは良いものではなかった。しかし、清水谷へ足跡を伸ばせたことに満足しつつ、来年はもう少し早い時期に、またこのルートをやってみたいと希望が湧いてくるのを感じながらの帰途であった。

0410 中央アルプス/WC : 正沢川細尾沢

【期日】 2004. 7. 24-25 【参加者】 中澤氏 (CRUX), 尾崎

7/24 木曾駒スキー場 8:29-入溪 9:10-10:45 玉ノ窪沢出合-11:37 細尾沢出合-12:07 大滝下-13:55 幕営

正沢川～木曾駒は、沢そのものは易しいものの、総合グレードⅢ級とのこと。今回は好天に恵まれ、ただ「楽しい」に尽きる山行だった。正の沢分岐までは川原歩きが冗長の感ありだが、大滝を過ぎれば明るい花崗岩の快適遡行が待っている！大滝の巻きは右のルンゼから。少々いやらしいが、踏み跡はある。そこからはほんとうに美溪で穴場。

テン場は明るく開けた滝下で、アーベントロートの稜線が夏山 JOY。日本酒を冷やして、焚き火で米を炊いて、おかずをつくる。

7/25 発 7:00-9:00 水くみ-10:20 木曾駒ヶ岳 10:45-11:50 西駒山荘 12:10-13:10 大樽小屋-14:25 桂小場

夜はシュラフカバーのみで寒かったが、朝も焚き火で温まる。

今日も美溪を堪能してずんずん進む。そのせいかな？ 水涸れはあっけなくやってくる。カール内の窪筋を詰める。左寄りに頂上から派生する小尾根に上がり、バリエーションっぽい雰囲気も楽しめば、縦走路は人だらけであった。さすがは木曾駒ロープウェイのパワー。。。

それでも桂小場への下山路は静寂だった。この土日は大気が不安定と見えて、午後 1-2 時半ごろは雷と土砂降りに見舞われた。木曾駒頂上方面は黒雲に覆われて、このときロープウェイは落雷事故で観光客打ち止めだったとか。北アルプスでも落雷事故が報告されたが、みんな、夏山の基本、午後は「稜線歩くな」を守りましょうね。

運良く、伊那市駅前に風呂屋を見つけ、さっぱりして帰ることができた。

夏山合宿 2004

0414 和賀山塊/WC : 堀内川八瀧沢～和賀岳～和賀川大鷲倉沢

【期日】2004.8.12-15 【参加者】先発：青谷，松本，加藤，額賀，尾崎；後発：遠藤，上野，島田

8/12

角館＝夏瀬ダム 11:34－12:20R－13:30 朝日沢出合－14:28R－15:50 マンダの沢出合

初日、マンダノ沢出合まではけっこう長く、おまけに雨がち。途中で1パーティに出会う。3年前に来たときよりも非常に長い印象を得つつ、マンダノ沢出合まで。出合い手前で快適そうな幕営地を見つけるが、青谷 CL 穏やかに一声、「ま、出合までは行こう」。マンダノ沢出合も、左岸・右岸どちらも快適そうな幕場である。雨がちとはいえ焚き火をし、松本さん持参の酒で楽しく過ごす。

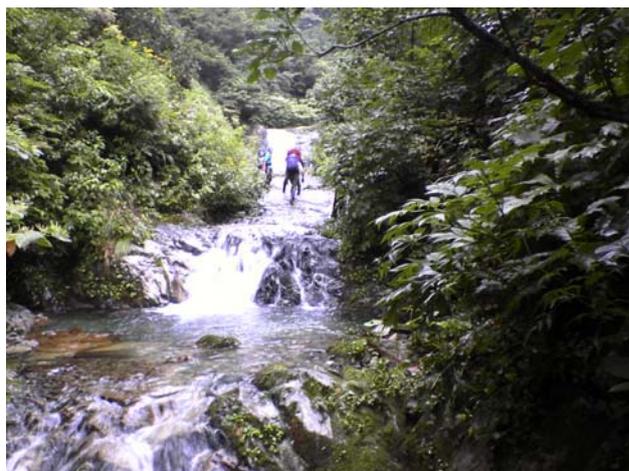
8/13

発 5:50－7:24 辰巳俣沢出合－8:37R－10:10R－11:20R－12:24 水くみ 12:45－13:45 稜線－14:13 和賀岳
14:42－15:36R－16:20 和賀川渡渉点

2 日目、日本列島全国晴れとの予報でも、相変わらず秋田方面だけ雨らしい。八瀧沢もなかなかの沢で、1ピッチ目から3段12m滝を右からザイル登攀(Ⅲ+級くらい)、釜の泳ぎも現れる。登山大系のいう「関門ゴルジュ 40m 1P の快適なカンテ」は様子が違い、登れそうにない。右岸に踏み跡を見つけ、巻き。その後も、大きな滝など案外と手強い溪相で、高巻きと懸垂支点を求めてのルートファインディングなど強いられる。



3 段 12m 滝



中流部の溪相

ツメは1時間のやぶこぎで稜線へ。このころから晴れ間が急速に広がりだす。和賀岳から少し北寄りの稜線鞍部に登りつく。15分ほど、か細い踏み跡をたどれば山頂へ。麓はとてもよく晴れさぞかし暑かろう。だがこちらは、雲に日が遮られ風が吹く。寒い。頂上からは一般道を約2時間で下降し、和賀川

渡渉点へ。右岸の台地は他パーティですでに埋まっており、宴の模様。われらは左岸の小沢に入ったところにより幕場を見つけ、閑静なBCとする。後発と合流し、翌日の大鷲倉沢へ緊張した夜となる。

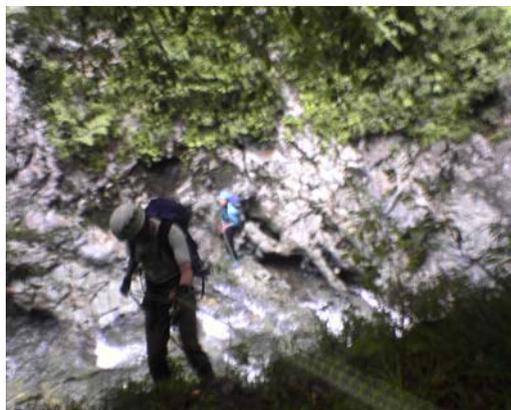
8/14

発 5:30-8:20 大鷲倉沢出合-8:27 大鷲倉・小鷲倉沢出合-9:45 12m 滝-12:15 920m 地点 12:30-13:55 1200m 地点水くみ-14:48 和賀岳 15:40-16:51 R 17:05-17:21 和賀川渡渉点

翌朝一番、和賀川下降を開始するが若干水は多め。おまけに空もどんよりはっきりしない。引き返しも覚悟で進むと、やがて釜やゴルジュが現れる。以下記憶が確かなら… (1)左岸から凹角を登って大高巻き、一連の釜 & ゴルジュを巻く。半島状の尾根を下って懸垂なし。(2)落差があり大きな釜を持つ滝は右岸をヘツリ、トラバースの後クライムダウン。(3)左岸から巻いて行くが、体も温まり、意を決し泳いで対岸へ。ここは左から巻いても、懸垂もなし。(4)右岸から巻き。左岸を行くと斜め懸垂となる。(5)右岸を巻いて懸垂下降。懸垂前の時点で流れの行く手に釜が見え、それはまさに掛けだが、ここは下降! 太ももまで浸かったが、その後右のヘツリで容易に越せる。やがて河原となって大鷲倉沢出合。登山大系通り「意外と悪い下降」だったが、なかなか楽しくコースタイム通り3時間。

大鷲倉沢へ入って5分ほどの小鷲倉沢出合で休憩。和賀川下降の無事終了に安堵しつつ、来る大鷲倉沢への期待が膨らむ。2年越しの夢もいよいよ。

ここからめっちゃくちゃ楽しい遡行となる。日差しも温かく、明るいナメと小滝が続く。登山大系で右壁直登とされる最初の12m滝は右のヤブの中を巻く。4m・6mの2段滝は、登山大系では左岸の巻き、トマの風女性メンバーも延々4時間巻いている。われら西朋は、4m滝は右壁を、そして対岸に移って6m滝は水流左の釜をアクロバットにヘツって、岩の割れ目にハーケンを打ち、ツルツルをA1・IV級で突破する。後続は直上の灌木でビレイ。ここからもめっちゃめちゃ楽しい遡行。最後の滝、左岸草付きの巻きがいやらしく、ルーファイミスを反省しつつも、ツメはヤブもなく、草を分けて和賀岳山頂に立つ。今山行2度目の和賀頂上は温かく、360°の大展望に長く休む。コケ平までの緩やかな尾根道からたどった沢を見下ろして、写真を撮り、のんびり下降した。



和賀川本流への懸垂下降



6Mトイ状の滝



7M末広がりの滝

8/15

発 6:38-7:23 高下分岐 7:35-8:37 車止め===湯田

充実した合宿も今日でおしまい。ちょうど天気もすっきりしない模様。高下分岐までは案外長い登り。それがかえって山との別れを惜しませる。次回への思いを膨らませながらの下山となった。下界の気温は15℃。里にもすっかり秋が来ていたようだ。



コケ平から和賀岳



和賀岳山頂

0419 上越/WC : 大源太山 鷲ノ首沢

【期日】 2004. 10. 11 【参加者】 青谷・尾崎

虎毛赤湯俣沢の温泉を狙った秋の山行も、毎週のように大型台風に見舞われた末頓挫する。秋たけなわの3連休も前日から大雨で、まったくしけた幕開けとなる。そんな中ではあったものの、連休最終日、越後は大源太山・鷲ノ首沢に行ってみた。台風一過を狙って、前夜青谷さんの車で旭原まで。風強くも星の降る一夜であった。焼酎を一杯ひっかけシュラフに入れば、満天の星空に浮かぶ夢を見た。

だが翌朝はどんより空。気を取り直して大源太キャニオンから入谷する。鷲ノ首沢に入ると、ほどなくして中級レベルの滝が連続する。F3は右から直登、V字谷の5連の滝は左側から行くが、巻きに入ると草付きに加えてツルツルの岩盤も出ている。弥助沢を分けてすぐのスラブ滝は、ガイドブックで難しく書いてはあるものの、上部は右寄りに余裕であった。その後も一癖ある滝をいくつか越え、沢本流が右、左と屈曲すると水流も乏しくなる。右の笹ヤブに続く窪に入ると、そのヤブからは想像できないスラブ帯が現れる。それを登りきると、最後のツメは垂直シャクナゲこぎに閉口させられた。沢そのものは日帰りレベルにお手ごろだが、下山は再び雨がちで、どうにもさえない10月連休になってしまった。

0420 谷川岳/WC&RC : マチガ沢東南稜

【期日】 2004. 10. 24 【参加者】 中澤氏 (CRUX), 尾崎

天気の見定めに迷った挙句、土曜発の日曜日の山行となるが、これが中越地震にどんぴしゃり。高崎付近でかなり震れる。行きは電車が大幅に遅れての水上着だが、大災害などつゆ知らずの我々はなんとの一てんきなことか。谷川岳登山指導センターでシュラフを広げ、一杯。その間も震れていたらしい。

巖剛新道の第一見晴らし台からマチガ沢に下りる。沢は全体として難しくはないが、ゴルジュの巻きなどはルートファインディング次第かもしれない。トマの耳が丸いピークでよく見える。一ヶ所、ホールドの少ないぬめった外傾滝でザイルを出し、少々濡れる。

「要の滝」は定かでなかったが、快晴に助けられて東南稜取り付きはよくわかる。右から入る枝沢を横切り左の大岩の下で準備をする。1P 目ルンゼ状(尾崎), 2P 目スラブ壁直上から右へ(中澤), 3P 目岩壁下を左へ(尾崎), 4P 目快適なリッジ(中澤)。プロテクションは随所に取れ、難易度は低いが、1P 目はハーケンなど古い。4P 目終了点から左にトラバースして登り詰める踏み跡にも、せっかくなので最後まで詰めようと、リッジ上の岩を乗り越す。このあたり、縦走路の登山者に見られて恥ずかしい。稜線から降りて取り付くときの下降点を過ぎ、急に藪っぽくなる。それでも忠実に進んでロープを解き、爽快にオキの耳へと到着した。

下山は西黒尾根。途中の氷河跡といわれる一枚岩は見ものだった。ハイカーの楽しげな雰囲気と相まって、紅葉輝く秋の昼下がりであった。上空には何度もヘリが北へ飛んでいったが、山そのものは小さな落石の跡のようなものが何ヶ所かみられた他は、地震の影響はほとんどなかった。今回の核心は、東南稜よりむしろマチガ沢のぬめった外傾滝だった。

0421 北アルプス : 白馬三山

【期日】 2004. 10. 29-30 【参加者】 鈴木, 中澤, 糸野和, 糸野晴(以上 CRUX), 尾崎

秋山の感覚で山に入ったところ、いきなり冬山の洗礼を受けた山行でした。「おまえら舐めんなよ」と。白馬雪渓はズタズタ。落石はクレバスを飛び越える。熊もいる。天気予報から当初の樺平への道は諦め、白馬三山縦走に切り替えましたが、14 時頃から湿雪にやりこめられ白馬鍾分岐 16 時。天狗山荘までは辛かった、16:30 着。ただ、雪のついた 3000m の稜線を歩いたのは有意義でした。

翌日はもちろん鍾温泉にはいる。雪見&紅葉見温泉。そこからはトラバース道は案外長く、ゆっくり振り返りながらだって予定外とはいえない山行でした。

0423 奥武蔵/RCT : 日和田山

【期日】 2004. 11. 21 【参加者】 松本, 尾崎

アメリカ・オレゴン州ポートランドで開かれた学会から前夜帰ったばかり。そもそもこの岩トレは、出国前から話は出ていたとはいえ、具体化したのは渡米中、それはインターネットの力そのものだった。

時差ぼけは無いが ---もちろん、登れないときには最強？の言い訳になるから黙っていた！---、さすがに海外からの帰国直後はつらい。おまけに隣では外国人パーティが「Try your left!」「ビレイ OFF!」なんて叫んだりしてここはどこだ？状態（これは本当）。今回は冬靴にアイゼン、毛手も持ってきて、冬山に向けて（気持ちの）のトレーニングに主眼をおいている。そうはいつても最初はフラットソール。いつもの男岩左側の軽いかぶったルートに取り付く。まずは朝一パワーかシューズのおかげか、久々とはいえそれなりに登る。次にいよいよ冬仕様に移るが、さすがに軍手でいいでしょうというわけでさっきのハングに取り付いてみる。「いやーさすがに時差ぼけじゃ登れんよ」。すぐに腕がパンプして、ボケてなくても技術がない。「本番じゃこんなところ行かないでしょ」と、もっと簡単な左側にトライ。ラバーソールなら余裕すぎるこのルートも、アイゼンで立ちこむにはコツを掴むまでそれなりの難しさがある。前爪 1 本で細かいスタンスをつかむのを思い出すと、それはまさに腕ではなく足で登る感覚で、ほどよい緊張感がなかなか快適なトレーニングとなる。松本さんもプラブーツにアイゼン、手袋で往年の技術を披露してくれる。

日の短いこの季節、16 時前には高麗駅に向けて歩き始めた。さすがに帰国翌日とあって疲れきり、帰りの電車は座って寝てしまったが、充実した一日のフィナーレとしてそれはそれでふさわしかった。白き山を夢見つつ…

冬山合宿 04-05

0427 南アルプス/VR【冬山合宿】：赤石岳東尾根

【期日】2004. 12. 26-29 【参加者】加藤, 尾崎, 島田

12/25

加藤先輩の車にお世話になり、前夜のうちに畑薙第一ダムの沼平ゲートまで入る。ここは風の吹き抜けらしく相変わらずの強風。またこんなところに来ちゃったなあとも思う。

12/26

晴天のもと、期待しながら樫島へ、毎度の林道歩きであるが歩調も快調、約 5 時間半で赤石岳登山口に至る。確実な登頂と悪沢岳への縦走の願いを込めて、今日はここからさらに林道跡まで 2P 頑張ることにする。あらかじめ枝沢で水も汲んである。まず 1P 目は急登をこなして赤石東尾根の末端に乗り、前回と同じくベンチマークまで。続く 2P 目はきついだらだら登りであるが、まだ土の道であるのに助けられ、今日最後の登りなんだと言い聞かせる。2 回横切る林道跡の、下の段で平地を選んで幕営した。

12/27

ここしばらくは弱い冬型の気圧配置が継続し、南アルプス方面は好天が期待できる。今日は 5 時発、まだ真っ暗で樹間からは瞬く星が見え隠れする。雪の無い冬枯れの尾根を懐電歩行で頂上を目指す。

赤石小屋手前より雪を踏むようになり、例年に無い寡雪の今年もようやく冬山らしくなる。もちろん、この山行直後から、特に日本海側で 19 年ぶりとかの大雪になるとは思いもよらなかった。快晴の富士見平でラクダの背を目の前にして、いよいよ来たと気持ちを新たにする。そして、今度こそは、と。前回 2002 年正月には、すぐに吹雪のラッセルで苦しめられたこの道も、冬季ルート入り口道標まではしばらく夏道をたどっていく。悪沢も赤石も快晴の下にすっきりとよく見えるが、特に荒川中岳や悪沢岳にほとんど雪がない。

ここからハイマツ漕ぎに時間を食う。核心を越えて赤石山頂小屋へ入れるか危ぶまれる。ラクダの背途中に幕営ポイントは 1ヶ所。標高 2950m のその場所は、核心部を目の前にした尾根の屈曲部で、小広いピークになっている。そこは 2002 年正月の敗退地点である。とにかくそこまでは行くべし。ピークで荷を置き、ラクダの背核心部までの偵察とトレース付けをした後、15 時半に幕営する。

16 時の気象通報(2004 年 12 月 27 日正午の天気図)によれば、明日いっぱい天候は持ちそうだが、

明後日 29 日の崩れは確実の様相である。明日中に千枚の避難小屋に入れるかが縦走の前提となる。今日の行動ペースなど総合的に考えると、残念だが悪沢はカット。その代わり、この場所は強風も予想されるため、装備はすべて背負って赤石岳山頂を目指し、明日のうちに赤石小屋の冬期小屋まで下降する。全装備での行動はこの山行のクオリティを保証するものとなるだろう。

寝る前、テントを出ればそこには月光の銀屏風が立ちはだかっていた。立つ位置によって、満月は稜線から出たり入ったりした。背後に甲府や静岡の夜景も輝き、そのまんなかに黒々とした富士山がかまえていた。風のない、印象的な夜であった。

12/28

快晴の登頂日和。やせた雪稜を慎重に進み、核心部へ。急とはいえハイマツなど手がかりも多く、困難ではない。むしろ、ロープをつけない稜上のほうが危険を感じるくらいだ。小赤石まで快適。稜線に出てから風が強いが、1 時間ほどで赤石頂上に立つ。北方には荒川三山が遠くでかい。しかし見渡す風景はなにかウェットな色合いで、天気は長くあるまい。3 年前の敗退からの前進をかみ締めるとともに、遠からず一層のステップアップを誓い、山頂をあとにする。

ラクダの背核心部は慎重に懸垂下降し、テン場を過ぎて途中から夏道のトラバースに合流する。赤石小屋の冬季小屋内に幕営。夜、年末ラジオ番組を劈いて、インドネシアの大津波が報道された。

12/29

予測通りの天気であり、朝から視界はない。東尾根の下降は降雪の中だった。樫島からの林道歩きは長かったが、日付の変わるころ帰宅できた。

0431 裏岩手/ST : 三石山

【期日】 2005. 2. 11-13 【参加者】 青谷, 尾崎

- 初日 薄日 網張スキー場～大松倉山～三つ石山荘（泊）
新雪のラッセル、小屋は貸切、ストーブ付きで快適
- 2日目 小雪・風強い、10時ごろまで天候待ち
三つ石山往復～松川温泉
状況を見ながら大深山荘目指すも、三つ石山より先は、風強く前進断念。松川温泉先で雪洞泊。思いのほか快適。
- 3日目 晴れ小雪・風強い 樹海ライン～下倉スキー場～中倉山往復（中退）～ゲレンデスキー

計画書の最初と最後はつじつまが合って途中パス。少し心残りですが、まあ十分雪とまみれた山行でした。やはり、この時期の山スキーはなかなか簡単でないというのが2人の結論。次回、3月～4月に下倉から大深岳を経て八幡平に抜けるのが課題です。今日、顔の一部凍傷が判明。盛岡の最高気温は-2℃、さすがに冷えました。（青谷）

今回の山行の最大の収穫は、雪洞の有効性快適性を身を持って感じたことでしょうか。

東北新幹線で盛岡までワープ。バスは正規 1200 円ほどのところ 600 円のフリーパスで網張へ。リフトを乗り継ぎスキー場上 13:30、いよいよスキーツアーの始まりとなる。

出だしの樹林帯ラッセルにちと面食らったが、それも長くはなかった。雪雲が去来し、大松倉山付近で風雪を受けつつも薄日に助けられ快調。大松倉山までは広い稜線なので磁石で真西に進んでいく。三ツ石小屋へは 16:00。勘を利かせたルーファイで GPS は使用せず。小屋は新築直後か？、木のおいと薪ストーブで快適快適。しかし天気は夜になるほど厳しくなる感じで、結局初日が一番穏やかだったようだ。

翌朝、起きてはみるが昨日以上の半ホワイトアウト状態。天気予報では午後から回復しそうなので、大深山荘までの時間を考え 10 時発とし様子見から二度寝へ。いっこうに回復しない天気だが、やがて良くなることを期待して、何はともあれ出発してみる。1 時間で三ツ石山頂、直下では強風のため這って進み、岩下の雪陰で休むが、烈風著しい。その先さらに風は強く、10 分も行かないうちに撤退決定。最近さえない山行が多い。三ツ石山荘に戻ると、そこはちょうど山陰で風が弱い所であるようだ。松川温泉から往復の 5 人パーティーが到着しており、今夜はにぎやか

そう。

午後ここにいてもしょうがないということで、13:30 前に行動を開始。とはいえ、稜線の強風に負け、トレースに誘惑されて松川温泉へ。切り開きとコースマークで迷うことのない道だった。最初はなだらかな歩きだが、後半はスリリングな林間滑降やパウダーを楽しめた。到着した松川温泉は満員で、自炊宿もない。挙句、なんと帰京可能なバス 16:15 に間に合ってしまう。究極の選択である。テント不保持の僕らにとって、帰宅の魅力は大きかった。でも新幹線ではるばる来たのに、ここでヒヨッタら悲しすぎる。樹海ラインを少し入った所に場所を求め、真っ暗になるのを覚悟で掘り始める。落ち着いたのは 18 時前。雪雲煙る西の空、無念の大深岳稜線に三日月がでっかく浮かんでいた。

雪洞泊は 2 回目。それにしても外から見た雪洞入口は、なんとも巨大な和式便所。その巨大便器にもぐり込めば、ローソク一本でとても明るく、しかも強風なんてなんのその、快適な雪洞が出来上がった。

最終日、今日も寝坊。おっとド快晴と思ったのも雪洞の静かさのおかげだろう。やはり稜線方面は風雪の様相。こうなっては樹海ラインから下倉スキー場へ出る位の選択肢しかないか。南に見える岩手山がでかいが、稜線の風はすさまじそうだ。アタック装備でゲレンデトップから中倉山をめざす。これも残念なことに時間切れで引き返しとなってしまったが、大深岳へのスキールートとして有効であることは確認できた。ただ、中倉山の上はだだっ広いので視界が利かないと注意が必要だろう。

ゲレンデ練習も少しやり、バスで盛岡へ。16:30 過ぎのやまびこで帰京した。やったぜ！という充実感こそなかったが、こういうのもいい冬山かな。でも登山というより山遊びだったかもしれない。次回は積極的に雪洞利用もしてみたい。(尾崎)

0433 頸城/VR & ST : 東海谷山塊 吉尾平周辺・烏帽子岳東稜

【期日】 2005. 3. 19-21 【参加者】 糸野和, 糸野晴 (CRUX), 尾崎

3/19

糸魚川が海辺の町だったことにいまさら気づき、そしてそれはぼくら山ヤにとって驚きだった。それでも少し山に分け入れば、あたりは一面雪景色、やっぱり糸魚川は山の町だった。

さて、焼山温泉スキー場下の駐車場に到着した7時半ごろは、天気予報もうらはらに湿ったボタン雪がずんずんと降りしきり、とてもとても、荷物分けして出発なんて状態ではなかった。小一時間の待機の後、空は急速に晴れてきて、見る見るうちに日差しがあふれてくる。そうなるに現金なもので、眠気はふっとぶ。出発する他パーティーに半ばあせりながら準備を始めるのだった。

目の前に広がる東海谷の雄大な景色に誘われながら、アケビ平へ。今日は風が強い。左から入る昼闇谷を渡ると、鉢沢との二股は無木立の台地で天気がよければ快適な幕营地だ。今回は明日の烏帽子登頂を目指して、さらにトラバース気味に進む。左から落ちる沢の下りと登り返しは重荷スキーでちょっときつい。登り返して台地のトレースから右へ分かれ幕营地を求め。そこは烏帽子東稜を正面に望む快適なサイトだった。

ココアで一服の後、コルまでのルート偵察&スキー練習に出掛ける。上流側の林道跡を使って先ほどの鉢沢を巻いて渡り、晴天のもと快適な偵察だった。背後には昼闇山北東尾根が西日に照らされ、端整で長大なラインを描いている。その向こうには焼山と妙高山が雲に見え隠れして、ずっとずっと手前には、黄緑色の僕らのテントもしっかり見えた。これで明日は暗いうちからスムーズに行動できそうだ。くだりのスキーも楽しく帰幕した。



幕营地から正面に烏帽子岳を望む。

右のスカイラインから頂上直下の壁までが東

3/20

本日も快晴。薄暗いうちに懐電スキーで出発だ。昨日の偵察トレースのおかげで快調に進み、東稜のコルへと歩を進める。コル手前は見た目以上の急傾斜で、ジグザグ登高で尾根に乗る。東稜のコルはさほど狭くもなくいが広くもない。もう一段上がるまで尾根は急でもないの、そこまではスキーをつけて登ることとする。一段上がったところでスキースタイルからアルパインの登高スタイルへ。急傾斜をラッセルで直登すると、傾斜が緩んだところで東稜は右へ曲がり、いよいよやせて高度感いっぱいとなる。鋭いピナクルは左右ともに巻くことはできず、スノーバーとザイルで確保しながらキノコ雪を崩して前進する。

ピナクルを越えるといよいよ頂上直下の雪壁だ。真上には巨大な雪庇を従えた烏帽子頂上が迫る。といってもピナクルを越えたこの場所はちょっとした小広場になっており、それほど威圧感はない。



茜色に染まる阿弥陀岳・烏帽子岳



東稜のコルより見上げる烏帽子岳

後ろから新潟稜友会パーティが追いついてきた。この雪壁は2パーティ合前後しながら登る。われわれは一段上がってブッシュ伝いに右上気味にルートを取る。この雪壁は見た目ほど立っておらず、ぐいぐいとロープ2Pで頂稜雪庇の下に至った。

逆に雪庇は見た目以上に立っており、雪も硬くて切り崩しに苦労する。結局は地元パーティが一枚上手。岩に隠れた右奥に弱点を見つけて先行される。最後はそのトレースをありがたく頂戴。念のためにザイルで確保した。雪庇を越えれば日本海が見える！うーんなかなか味な登高かも（白馬主稜だってそうだし、珍しくはないね）。

烏帽子頂稜は西風で寒い。それでも最高地点までは慎重に登り、14時、満足してすぐに下降に入る。雪庇は確保して下り、その下の雪壁は足掛け3Pの懸垂下降となる。その後のピナクルも下りは登り以上に高度感があり、途中までは確保しながら下降を続ける。東稜のコルまで戻った時にはすでに暗くなり、天候も急速に悪化した。

風雪の中をヘッデンスキー。これもなかなかない経験だ。帰幕は20時半をまわったが、こうなりゃ明日は帰るのみ。テントで遅い夕食をとってまどろんで、楽しかった一日を振り返った。

3/21

今日も天気は最高。帰るだけではもったいないと、軽く散歩に出かけることにする。昨日のトレースをたどって鉢沢を渡り、左岸沿いに緩やかに20分も行くと絶好の展望台に出た。ぐるり360°。テントを撤収し、後ろ髪を引かれながらの下山だった。



屋間山バックの記念撮影

2004 年度 超 OB 山行・個人山行の記録

【超 OB 山行】

6 期 林武志 氏 報告

平成 16 年度山行

4/7 (水) 岩殿山：4 期田中実、6 期林、9 期松田、10 期黒澤、ゲスト 2、計 6 名

5/8~30 アンナプルナー一週トレッキング：6 期川口、6 期林、他 1 人

10/13 (水) 弘法山から鶴巻温泉：6 期林、9 期松田、10 期黒澤

【個人山行報告】

山行後または総会前に報告を受けた山行

4 期 松田朝夫 氏

すでに古希を過ぎ、どなたとも山行をする機会はありませんが、八ヶ岳山麓の山荘に蟄居した折などに、若き西朋時代を思い出しながら、北八ヶ岳の林間を一人彷徨ったり、山小屋のご主人を訪ねたりしています。近況報告を兼ね昨年のハイキング報告？を添付いたします。総会参加の皆々様にくれぐれもよろしくお伝えください。

<松田山荘雪景色>



<根石岳頂上で>



<木曾駒稜線を行く>



<宝剣岳頂上で>



12期 橋本章氏

32歳の時にサッカーで膝を骨折、もう山には登れないとあきらめ、また、50歳代に外国勤務などあり、西朋にはご無沙汰にままでしたが、長い時間をかけてリハビリに励み、少しずつ山に行けるようになりました。以下に本年の山行報告をいたします（S 単独行、P 複数）。

2004年

- 01月02日 丹沢塔の岳・鍋割山(S)
- 01月11日 笹子より清八山、三つ峠縦走(S)
- 02月08日 丹沢三つ峰、丹沢山、塔の岳(S)
- 02月29日 毛無山(S)
- 03月14日 ヤビツ峠より塔の岳(S)
- 03月28日 奥秩父西沢、2111 ピーク(S)
- 04月18日 外秩父7峰 42, 195Km(S)
- 05月01日 丹沢、畦が丸(S)
- 05月03日 甲武信岳(S)
- 05月18日 丹沢檜洞岳（石棚尾根、ツツジ尾根）(P)
- 05月28日 丹沢檜洞岳（ツツジ尾根、檜洞、犬越）(P)
- 06月13日 丹沢、天王寺尾根、堂平(P)
- 07月18日 富士山(S)
- 08月07-08日 鳥海山(S)
- 08月09日 鶴岡より、月山 肘折温泉に下山(S)
- 10月10日 乾徳山(S)

10 月 24 日 丹沢主稜縦走、西丹沢・蛭・塔の岳(P)

11 月 03 日 丹沢、鍋割山(P)

11 月 21 日 西沢・黒金山(S)

現在神奈川県茅ヶ崎市に在住しており、丹沢に行く機会がとても多い。8 月の鳥海・月山は快適でしたが、月山の下山路の肘折温泉コースは長大なのが難とは言え、念仏平付近はすばらしい別天地。北アルプスの五色平の如し。

2005 年

1 月 2 日(日) 丹沢塔の岳・丹沢山

大倉から入り、駒止め茶屋からアイゼン着用。快晴無風、きつい馬鹿尾根を登ると、塔の岳頂上からは南ア聖・甲斐駒、国師・甲武信、東は筑波山まで見えるすばらしい眺めでした。引き続き、積雪がやや増えましたが、丹沢山に向かう。少し風が出てきたので、蛭ヶ岳まで行くことは断念。丹沢山頂上から引き返し、金冷やしから二俣経由で大倉帰着。歩行時間 7 時間 5 8 分（出発から帰着まで、以下同様）。

1 月 9 日(日) 本社ヶ丸

笹子駅から甲州街道を少し登り、南へ進路を変えて、清八峠方面に向かう。昨年も同じコースを登ったが、今年は特に雪が多く、途中の発電所からアイゼン着用。快晴に近いが気温はかなり低い。清八峠まではルートが北面なので、思ったより積雪量が多い。ただしルートははっきりしており、ラッセルが必要なほどではない。北風が強く、時折雪煙が下から吹き上げてくる。清八峠も強風で寒いので、休憩を取らずに本社ヶ丸に向かう。ここの稜線は北風がまともに左から吹きつけ難儀する。雪は膝くらいあるが、ルートははっきりしており、まもなく本社ヶ丸頂上に到着。一瞬風が無くなる。ここからは金峰山、国師、大菩薩、雁ヶ腹摺山、富士山、三つ峠などが見える。鶴ヶ鳥屋山までは同じようなピークをいくつか超え、さらにこの山を降るときは積雪量がさらに多く、西朋時代に先輩から教えられた雪山下山の方法を駆使して、何とか林道にたどり着き、初狩駅に帰着。歩行時間 6 時間 4 5 分。

2 月 6 日(日) 金時山

スギ花粉アレルギーなので、その直前にと思い、大雄山駅から歩行開始。ここもやはり雪が多く、大雄山最勝寺より少し上から雪がある。スギの大木の林を抜け、標高 7 0 0 メートルくらいから積雪で、アイゼン着用。快晴であったが明神岳頂上は突風が吹いており寒い。富士山や箱根

の外輪山が美しい。予定のコースは、この外輪山一周で、箱根町まで歩く予定。しかし、ここから矢倉沢峠までのコースは高さ1-2メートル位のシノタケが両側から折り重なり、その上を雪と氷が覆っているため、丁度竹のトンネルのようになっており、それをまたいだり、払ったり、くぐったりで、思ったより体力を消耗してしまった。また、金時山の登りは今度は靴のくるぶしまで来る泥濘（雪解け水のためか）で難儀、大幅に時間をロス。やむなく乙女峠から御殿場経由で下山。大雄山駅より乙女峠まで歩行時間7時間19分。

3月13日(日)滝子山

初狩駅出発、快晴に近いが、寒い。歩行開始とともに気温が上がってきた。ルートは南東面が多いためか、積雪量は少ない。ただ、北東面などでは、かなり雪が多く、アイゼンの着脱に忙しい。この山では行きかえりともまったく人に会わず、静かな山であった。頂上の見晴らしはすばらしく、富士山、御正体山、杓子岳、北に黒岳、ガンズリなどが見える。滝子山往復で歩行時間5時間18分。初狩駅帰着後、すぐに辺りが急に暗くなり、雪が降ってきた。早く下山してよかった。

3月20日(日)藤原岳(鈴鹿)

青春18キップで辻堂から前夜発の快速「長良」に乗り20日朝6時ころに名古屋着。関西線で富田から、さらに私鉄で西藤原に8時28分着。薄曇り。この地域は関が原を通ってくる北風があるためか、標高のわりに積雪量が多い。標高700メートル位からアイゼン着用。それでも、木の根元など、雪解けした所や、藤原山荘付近にはフクジュソウが咲き始めていた。この山は、名古屋や関西の人たちには有名らしく、多くの登山者でにぎわっていた。藤原岳山頂からは南方に御在所岳、雨乞岳、釈迦岳などが望めた。山荘付近で積雪量は約50センチ。すぐ下山。

西藤原着。歩行時間4時間32分。その日は豊橋で泊まり。翌21日(月)は豊橋の東方にある葦毛湿原に行く。ここでは、ハルリンドウ、ショウジョウバカマが咲いており、またミカワバイケイソウとバイケイソウが顔を出していた。